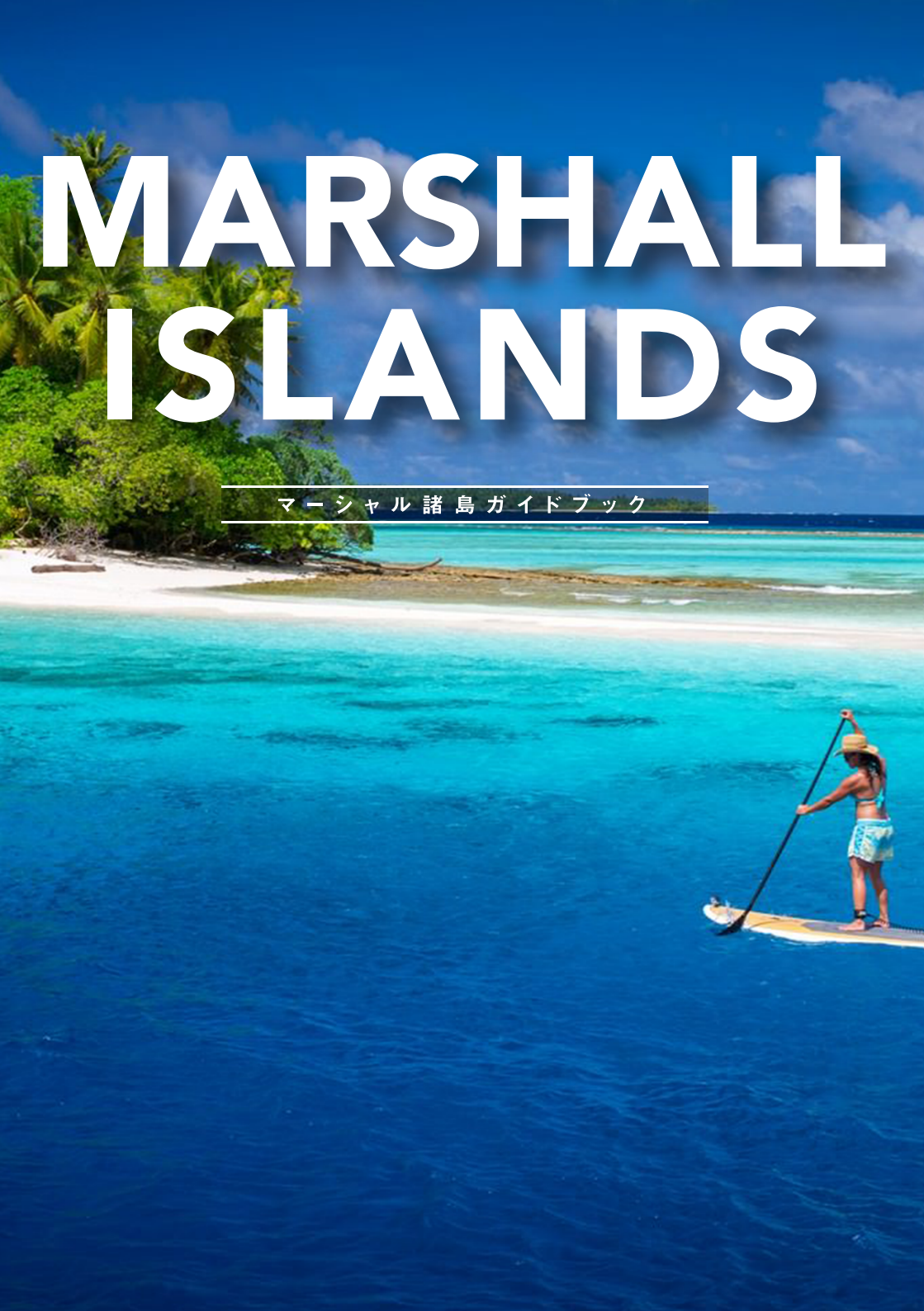


MARSHALL ISLANDS

マーシャル諸島ガイドブック



刊行にあたって

本ガイドブックは太平洋諸島センターの活動対象となっている太平洋島嶼国14カ国のうち、マーシャル諸島共和国に関する観光情報を可能な限り詳しく取りまとめたものです。また、同国につき出来るだけ広く理解いただくために、観光情報以外にも同国の歴史、産業、自然、社会等についても簡潔に記載いたしました。

マーシャル諸島共和国は豊かでユニークな観光資源を有しており、同国政府は観光開発に力を入れていますが、日本からの訪問者数は未だ限られています。本書が同国を訪問される際の参考となり、また同国につき理解を深めていただくための一助となれば幸甚に存じます。

なお、本改訂版の作成に当たり、多大なるご協力をいただきましたMarshalls Japan Construction Company (MJCC) 佐藤様に深く感謝いたします。

2022年3月

国際機関 太平洋諸島センター

*国際機関 太平洋諸島センターは、ホームページで情報を公開しています。
アドレスは、<http://www.pic.or.jp>

マーシャル諸島 共和国



正式国名	マーシャル諸島共和国 (Republic of the Marshall Islands)
面積	181平方キロメートル(霞ヶ浦とほぼ同じ大きさ)
人口	59,194人 (2020年、世界銀行)
首都	マジュロ (Majuro)
民族	ミクロネシア系
主要言語	マーシャル語、英語
宗教	キリスト教 (プロテスタントが大部分)
政体	大統領制
1人当りGNI	4,860米ドル (2018年、世銀)
通貨	米ドル (US\$)
電話の国番号	(692) + (相手先の番号)

目次

1. マーシャル諸島の概要	2
2. 首都マジュロ	13
3. その他の環礁	26
4. マジュロラグーンでのシュノーケル	30
5. 関係先リスト	33

約3000年前までに、火山島の周りに溜まったサンゴ礁が小さな新たな島を形成した。その島が輪の形に残り、その中にはラグーン（礁湖）ができた。それが今日のマーシャル諸島である。陸となっている部分は狭く、山も川もない島が繋がってできている。これらの島々の平均海拔は2～3メートルである。

●首都マジュロ (Majuro)

首都マジュロのあるマジュロ環礁は64の島で構成され、デラップ、ウリガ、リタの3島が道路で結ばれており、政治、経済の中心になっている。



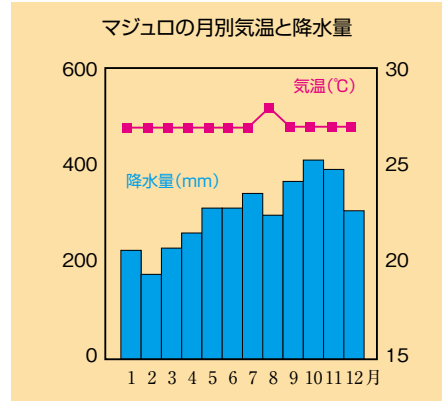
低い島がつながるマジュロ環礁

人口

マーシャル諸島の人口は、59,194人（2020年、世銀）。1999年の政府統計では、マジュロ環礁に約半数の約2万4,000人、クワジェリン環礁に約2割の1万1,000人が居住しており、両地域で、総人口の約7割が生活している。

気候

海洋性熱帯気候で湿潤高温である。年間平均気温は27度で1年を通じてほぼ一定で



ある。日中の日差しは強いが、海からの貿易風で朝夕は涼しく過ごし易い。雨は日中より夜間に降る方が多い。降雨量は少なく、年間平均3,400mm程度で、一番よく降る10月から11月が月平均300mm程度、1月から3月は200mmに満たない。また7～9月は比較的風が弱くなり海が凪ぐ。

歴史

●先史時代

考古学者によると、マーシャルに人が住み始めた形跡が見られるのは、今から2000年ほど遡った時代である。どのような形で人々が移ってきたかははっきりしていないが、マーシャル人と関連するいくつかの証拠があるという点から、南・南西にある東部メラネシアやキリバスあたりが起源とされている。

●スペイン・英国・ロシアとの交流

マゼランをはじめ、多くのスペイン船が太平洋を行き来し出した1520年代、マーシャル諸島は西洋の文化に初めて触れた。その後1788年、英国人の船長ジョン・

マーシャルとギルバートが島々に入ってきた。これがマーシャル諸島と呼ばれるようになったきっかけである。英国船は1707年にブリタニア号、1803年にローラ号、1809年にはエリザベス号が寄港した。

英国に続いて、ロシア船ルリック号が1816年から23年にかけて訪れ、船員だったアーティストのルデュウィグ・クリスと自然学者のアベルバード・ボン・チャミツソの指導により、マーシャル諸島で初めて水理学・植物学・動物行動学の研究が行われた。

●捕鯨船員/宣教師の時代

1800年代前半に捕鯨船がマーシャルを訪れるようになったが、1850年ごろから灯油が普及し始めたと同時にクジラの油・捕鯨は廃れていった。

1857年には最初の宣教師の一行がハワイから到着した。宣教が開始されたのはエボン環礁だった。宣教師たちは徐々に活動範囲を広げ、19世紀の終わり頃にはすべての環礁に教会を建てた。今日、キリスト教文化はマーシャルの重要な部分となっている。

●ドイツによる統治

1859年、ドイツ人アドルフ・カペルはサモアからエボン環礁に到着し、ポルトガル人ジョー・デブルムと提携してマーシャルで初めての貿易会社（ジャルート・カンパニー）を設立、ヨーロッパ人として最初の移民となった。

1885年、ドイツはマーシャル諸島を保

護領とすることを宣告したが、1906年に行政府を設置するまでは、ジャルート・カンパニーが貿易会社と植民地管理局という二つの仕事をこなしていた。当時は、首都をジャルート環礁のジャボールに置いた。第一次世界大戦の敗戦により、ドイツの支配は29年間で終わった。

●日本による統治

1914年、第一次大戦が勃発すると、日本はマーシャルを含むドイツ領ミクロネシアの島々を占領し、統治を開始した。ドイツの統治時代から、日本はコブラなどの実質的な取引を行っていたこともあって、植民地政策を急速に推進した。また、人口の増加していたジャルートとマジュロを拠点とし、ジャルート・カンパニーを南洋貿易会社と改名して運営を続けた。1920年に国際連盟より日本のミクロネシア委任統治が認められた。1933年、日本は国際連盟から脱退し、環礁を利用した強大な太平洋の要塞化を開始した。

●第二次世界大戦

第二次世界大戦が始まるとマーシャルにも戦火が広がった。1944年2月、ミク



当時を偲ばせる輸送船の残骸

ロネシアにおける米軍の反撃の第一歩は、マーシャル諸島クワジェリン環礁の旧日本軍基地に対するものだった。ロイ・ナムールの旧日本軍基地は徹底的に破壊され、次いでマジロ環礁が攻略された。米軍はクワジェリンを空軍基地に、マジロを航空母艦の基地にして、カロリン諸島の旧日本軍基地を攻撃した。

●米国による統治と独立

1947年、マーシャルは、現ミクロネシア連邦とパラオと共に、米国の国連信託統治領となった。1946年から58年まで、米国による核実験がビキニ環礁及びエヌエタック環礁で行われ、ビキニ環礁の名が世界中に知れ渡った。

1978年7月ミクロネシア憲法草案が各地で住民投票にかけられたが、マーシャルは、同憲法を拒否し、1979年5月に独自の憲法を制定して自治政府（マーシャル諸島共和国）を樹立した（初代大統領はアマタ・カブア氏）。1986年10月、米国との自由連合に移行し、1991年9月、国連加盟が承認された。

政治

議会は一院制で議員数は33名、任期は4年。議会のことをマーシャル語でニティジェラという。大統領は議会において選出され、閣僚は大統領が指名する。こちらの任期もそれぞれ4年となっている。また、これと並行して伝統的指導者で構成される首長評議会があり、諮問委員会のような役



割となっている。

米国との自由連合関係にあり、国防、安全保障の権限を米国に委ねている。

経済

貨幣経済と伝統的自給経済が混在している。国内の生産性は高くなく生活必需品の多くを輸入に依存しており、貿易収支は恒常的に赤字である。政府歳入の約6割は、自由連合盟約に基づく米国からの財政援助であるが、今後援助の削減も予想されるため、民間セクター育成等、経済構造改革に努めている。

産業

マーシャル諸島の主な産業は、農業、水産業及び観光業である。農業は、コブラ（乾燥ココナッツ、ヤシ油原料）の生産が中心であり、主な輸出品として収入源になっている。その他の農作物はタロ、パンの実、バナナ等である。水産業は、国内消費を目的とした沿岸漁業に加え、日本、中国、台湾等の外国漁船からの入漁料収入がある。1992年に始まったハワイ向け空輸事業によってマグロ、カツオの生産は増えた。

マーシャル政府は、外貨獲得のため、観



活気のあるマジュロの中心街

光産業に力を入れており、ダイビング、スポーツ・フィッシング等をセールス・ポイントとして、米国や日本からの観光客誘致に努力している。日本からの観光客数は、2001年には659人、2009年には1000人を超えたが、近年は400人前後で推移している。

日本との関係

明治以前から細工用の貝を求め日本の漁師がマーシャル諸島方面に渡っていたことが知られている。また、ドイツ統治以前から日本の商社がコブラの買い付け、雑貨類の販売のため貿易を行っていた。1914年、第一次大戦の勃発と同時に日本軍はドイツ領マイクロネシアを無血占領し、1920年からは国際連盟委任統治領とし、第二次大戦終結まで30年間統治した。1969年、日米両国民は、マイクロネシア地域が激戦

地になったことに鑑み、住民全体の福祉向上の見地に立ち、マイクロネシア協定を締結し、両国はマイクロネシアに対し夫々500万ドル（当時のレートで18億円）の自発的拠出を行った。1993年1月には日本・マーシャル協会が設立された。日本との正式な外交関係は、1988年12月に樹立され、1991年12月に在京マーシャル大使館が、1997年1月に在マーシャル日本大使館が開設された。

マーシャル諸島の人々の対日観は、一般的に日本及び日本人に対し親近感を持っている。また、日本の経済協力、日本との漁業関係などもあり、両国の友好関係は深まってきている。2022年1月現在の在留邦人数は、45名で、その殆どが首都マジュロに在住し、商業等の従事者が多い。

貿易関係では、日本は米国に次いで重要な貿易相手国である。マーシャル諸島からの対日輸出の殆んどがマグロ、カツオで、日本からの輸入は機械、車両、食料品等である。

特産品

マーシャル諸島の特産品としては、食品では、マグロ、カツオ等の魚介類に加え、ノニ・ジュースやココナッツ・オイル等がある。また、ハンディクラフトとしては、「アミモノ」と呼ばれるヤシやパンダナスの繊維製バッグ、トレーなどや貝細工等がある。トイレタリーでは、ココナッツ石鹸やココナッツ・オイル等のココナッツ製品やノニ・ソープ等がある。



社会と自然

●言語と教育

公用語はマーシャル語と英語。島民同士の会話は、ほとんどがマーシャル語、政府機関などの公式書類は英語である。また、歴史上の経緯により、年輩の人で日本語を話せる人も居る。

教育は米国の教育制度を取り入れており、エレメンタリースクール7～8年、ハイスクール4年である。大学は、マーシャル諸島短期大学と南太平洋大学(University of South Pacific)のマジュロキャンパスがある。

●宗教

1857年に最初の宣教師がマーシャル諸島の最南端のエボン環礁に上陸した。これにちなんだ祝日が、12月第一金曜日のゴスペル・デーで、マーシャルに初めて聖

書が持ち込まれた記念日となっている。

大部分がプロテスタントで、会衆派教会、神の議会、プロテスト、安息日再臨派などに分かれている。カトリック教徒はミクロネシアのほかの地域に比べると少ない。



●鳥類と動物

海鳥を中心に106種の鳥類が生息。「ムレ」(英名:ラタック・ミクロネシア・ビジョン)と呼ばれる固有種は、マジュロ近郊でも見ることができる。家畜のブタやニワトリ、ペットとしてイヌやネコが多く見られる。

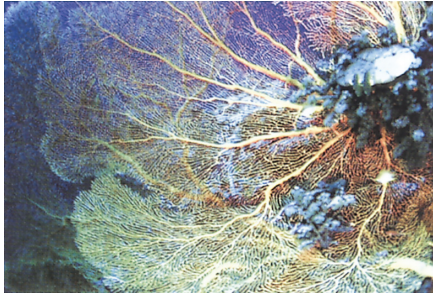


リキエップ環礁で見たシロアジサシ

●海洋生物

マーシャル諸島は海洋生物の宝庫である。サンゴ虫やイソギンチャク、カラフルなイソバナ類、オウム貝、絶滅が心配されるウミガメなども棲息している。また、サ

メヤマンタ・レイ、イルカ、マグロの群れが見られる。



ミリ環礁の美しいサンゴ

●植物

ココヤシの木はマーシャル諸島で最も重要な植物である。ヤシ油が作られるコブラは最も重要な輸出品であり収入源である。ココヤシの果肉は食用になり、花はヤシ酒を作るための樹液を供給する。ヤシの実の外皮からはロープが作られ、燃料にもなる。木は用材のほか、彫刻用、屋根の材料などに使われる。

マングローブの茂みは島の岸に沿ってどこにでも見られる。マングローブの木は、その根が陸から離れて伸びて、堆積物がその周りに集まり、海岸線を拡大するのに役立つ。

ハイビスカスやブーゲンビリア、ビーチアサガオ、ユリなど、カラフルな熱帯植物も豊富である。

●祝祭日

1月1日	元旦
3月1日	核の犠牲者の日
5月1日	憲法記念日
7月第1金曜日	漁民の日

9月第1金曜日	勤労感謝の日
9月最後の金曜日	文化の日
11月17日	プレジデント・デー
12月第1金曜日	ゴスペル・デー
12月25日	クリスマス

●イベント

4月第1金曜日	グッド・フライデー
5月1日	憲法記念日にパレードやスポーツイベント、打ち上げ花火。

9月第1週末

全ミクロネシアフィッシング
トーナメント

9月最終週

カルチャー&ツーリズムウィーク
(展示、ワークショップ、オークション)

12月第1&2週末

クリスマスパレード

12月クリスマス

各教会で地域毎グループが伝統
ダンス(ビート)や歌を終日披露。

12月31日深夜～

年越しブロックパーティー
(ステージ、野外緑日)

ほぼ毎月、ヨットレースやフィッシング
トーナメントが行われている。

旅行者のためのアドバイス

パスポートとビザ

日本国籍を有する場合、有効期限内のパスポート（有効期限6ヶ月以上）と復路の航空券を所持していれば、空港到着時に無料で30日有効の観光ビザが発給される。現地の移民局に申請すれば、観光目的で最大90日まで滞在が可能となる。

税関

税関審査は厳しくないが、もちろん、薬物、武器あるいは大量のアルコールと地元の農作物に有害な病気をうつす可能性のある果物や植物の持ち込みは禁止している。

両替

マーシャル諸島の通貨はUSドル。日本円はどこのお店でも使えないので、日本出発前にUSドルに両替しておくこと。なお、レートは悪いが現地の銀行で両替することもできる。2つの銀行はダウタウンにある。 Gum Bank はデラップ地区にあるペイレス・スーパーマーケットにあり、マーシャルアイランド銀行はウリガ地区のホテル・ロバートレイマーズの道路をはさんだ向いにある。銀行の営業時間は月～木が10:00～15:00、金曜が10:00～18:00。

クレジットカードは大きなホテル、ツアー会社、スーパーマーケットで使えるが、レストランでは使えないところも多い。ク

レジットカードはVISA/Masterが主流で、他のカードは事前に確認する必要がある。



マーシャルアイランド銀行

郵便

日本までハガキ一葉、封書一通1.20ドル〜となっている。日本からの航空郵便物は通常2～3週間を要する。

国際電話

マーシャル諸島の国番号は692

市内通話料金は無料。国際電話や離島の無線電話は、デラップ地区にあるNTAで24時間利用できる。通話料は日本まで1分あたり7AM-7PM 1.25ドル、7PM-7AM 1ドル。ホテルからの電話はこの料金に手数料が加算される。NTAではテレホンカードも販売しており、これを利用するとホテルからの国際電話もお得だ。

●インターネット

特定のホテルやレストランでは、WiFiカードを販売しているので、カードを購入すればインターネットが可能。(\$5につき5分)

旅行に適した時期

マジロの観光シーズンは、ほぼ通年良い。6月～10月上旬は風も弱く、海も風が、1月～5月は北東からの貿易風が吹くが、晴れの日が多い。ただし、11月～12月上旬は雨が多く、海が荒れる日もある。

旅行者用の案内書

観光局には、旅行者用のパンフレット類が用意されており無料で入手できる。

服装と持参したいもの

●服装

男性と若い人々はTシャツにジーンズとサンダル、半ズボンがほとんどだが、年輩の女性はゆったりした花柄のムームーを好んでいる。若い女性と少女は、ふくらはぎまであるスカートをはいている。外国人観光客も、ひざ上より短いショートパンツやミニスカート、水着で出歩かないなど配慮が必要。屋内の冷房が強いことがあるので上着があると便利。

マーシャルでのフォーマルな服装は、男性はアロハシャツに長ズボン、女性はムームー。マーシャル人はキリスト教の信仰が強いいため、水着の着用は、プライベートビーチ以外では禁止されている。もっとも、日差しが強いため、肌の露出が多いものを避けるなど、観光客は注意が必要。

●傘

雨が降っても現地の人々はほとんど傘を

差さないが、旅行者は傘あるいは雨用のジャケットを用意したほうが良い。

●はきもの

はき物は主としてビーチサンダルまたはカジュアルなサンダル。スニーカーは踏み固められた道や荒れたサンゴ礁に沿って歩く時、またはハイキングに役立つ。

●懐中電灯

停電があることから懐中電灯を持っていると便利なこともある。

●医療品と化粧品

医療用品と化粧・洗面用品、コンタクトレンズ用の溶液などの入手が困難な地域もある。日焼け止めは必ず持参すること。

太平洋諸島への旅行には大きな荷物は必要ない。機内に持ち込める程度のもので事足りるように準備するのも旅行術の一つである。

日本との時差

マーシャル諸島は世界標準時のプラス12時間で、日本との時差はプラス3時間となる。日本が正午の時、マーシャルは同日午後3時。またマーシャル諸島の国内での時差はない。

電気

電気は110/120ボルト、60サイクルで、差し込みプラグは日本と同じ形態でそのまま使うことができる。

健康を守るために

食べ物や飲み物に注意を払うのは、健康維持のための第一歩である。そして、旅行中の病気でもっとも多いのが胃痛である。

医薬品の入手は簡単ではないので、自分にあつた応急用の医薬品を持参することが望まれる。

●水道水

水道水は、飲料水として適さない。旅行者は馴れないこともあり、また、疲れもあつたりするので、生水は絶対に避けること。ミネラルウォーターあるいは紅茶やコーヒー、また、水を沸騰させて飲料水にする時には、沸騰してからなお5分程度沸かし続けるようにする。

脱水症を避けるために、飲料水は努力して摂取するようにし、外出する時には必ず水筒を持参すること。

●アルコール

マーシャル諸島は、キリスト教色が強いため、日曜日は飲酒が禁止されており、スーパーでも日曜は販売を禁止されている。マジロ環礁以外の離島では基本禁酒となっている。また、首都のマジロ環礁でも、公共の場所や車中は飲酒禁止となっているので要注意。

●食物

マーシャル諸島の食環境は衛生的であり、それほど神経質になる必要はない。ただ、どこでも同じことだが、食料品は見るからに清潔で、良く売れている店で買うこと。

●有毒な魚

食べると有毒な魚の種類は300種類以上ある。種類が同じであっても魚のいる場所によって危険なこともあるので、釣った魚を食べるなら、その前に地元の人に確認してもらおうのが賢明だ。

●熱ばてと熱射病

強い日射しに馴れていない日本人は簡単に軽い火傷のような状態になるので、戸外では必ず帽子をかぶるようにしたい。最も太陽が強烈なのは午前10時から午後2時の間である。

脱水症あるいは塩分の欠如が熱ばてを起す原因で、熱さになれるまでは水分を十分にとることが大切。塩分の不足は疲労、無気力、頭痛、めまいと筋肉けいれんの原因になる。

旅行保険

盗難、損害と医療のための旅行保険に加入しておくことが望ましい。いろいろな種類の保険があるので、旅行代理店に相談して自分にあったものを選ぶようにしたい。

病気などの緊急事態にはグアムやホノルルなどへの航空料金をカバーしているかも調べておくことも大切。飛行機での座席も一つでは足りないこともあるので、保険でカバーできるようにしておきたい。

カメラと撮影上の注意

●写真撮影のエチケット

ミクロネシアの人々を撮影する時には、

必ず許可を求めること。無許可で撮ることは彼らのプライドを傷つけることになる。

ビジネス時間と休日

一般的には、月～金曜日の午前8時から午後5時がビジネスアワー。銀行は月曜から木曜日が午前10時から午後3時まで、金曜日は午前10時から午後5時までとなっているところが多い。



明るい表情のジャルトの少年

首都マジユロ

マジユロ環礁は57の小島が100kmにわたってつながる細長い楕円形で、その約半周に及ぶ50kmが舗装道路で結ばれ、1つの長い島をかたどっている。島の幅はいちばん広いところでも2kmほどであり、最高地でも海拔6mしかない。

マジユロには約2万4,000人の居住者がいる。環礁の北東部に、首都マジユロの中心街である3つの島、すなわちダリット (Darrit) とウリガ (Uliga)、デラップ (Delap) の頭文字をとってD.U.Dと呼ばれる地区がある。空港からDUD方向(東)へ8キロほどのところに、ブリッジ(橋)がある。これは、マーシャル諸島共和国内にある唯一の橋である。

デラップ地区はマジユロ橋を超えた辺りからはじまり、この地区には、政府機関や議事堂、病院などの首都機能が集中している。またデラップ・ドック(港)は離島への定期船やコブラ回収船の母港であり、大きな貨物船や客船も入港できる規模と設備が備え付けられている。

ウリガ地区は、ダウンタウンとも呼ばれるマジユロの中心地で、一番賑やかな地区だ。ホテルやレストラン、ツアー会社やスーパーマーケットが集まっている。ウリガ地区にはデラップ・ドックより一回り小さい港(ウリガ・ドック)があり、ここには日本からのマグロ漁船が入港する。

ダリット地区のことをローカルの人々はリタといい、舗装道路の北端にある集落だ。ここは主に住宅街となっており、観光客が出掛けることは少ない。ちなみに空港からリタの端(道路の終点)までは約17kmある。

空港からブリッジ(橋)までの区間はロングアイランド地区で、ここにはアメリカ、及び台湾などの大使館がある。

空港を西へ進んで、環礁の南西部へ行くとローラ村があり、道路もここで終点となる。ローラ村には伝統的で素朴な暮らしがあり、19世紀の終わりにこの環礁を「太平洋の真珠の首飾り」と呼んで愛した「宝島」の筆者ロバート・スティーブンソンの気持ちが理解できる。



小さな島が続くマジユロ環礁

一般情報

マーシャル諸島への旅行者は、そのほとんどが首都マジュロに滞在する。

●アクセス

日本からマジュロへ行くには、グアムでユナイテッド航空のアイランド・ホッピング便（アイランドホッパー）を利用する。このアイランド・ホッピング便はグアム・ハワイからマジュロへ各週2便運航。

空港～主要ホテル間は、ホテルの無料シャトルバスを利用できる。タクシーの場合はマジュロの中心街まで30分で\$3～5となる。

マジュロ空港から出国する際、12歳以上の旅行者は空港利用税が1人\$20必要となる。

●マーシャル諸島投資観光局

(Office of Commerce, Investment & Tourism, OCIT)

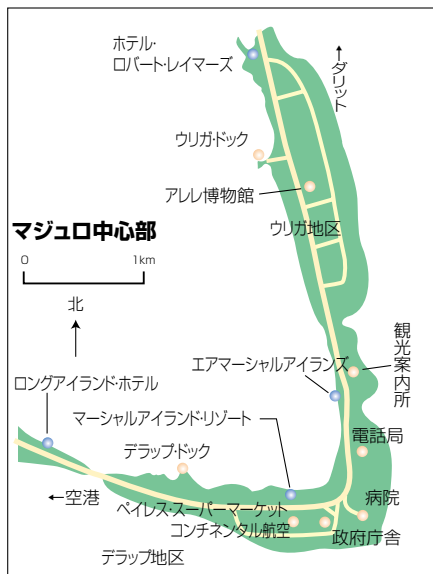
空港からデラップ地区へ入り、港を過ぎたあたりで道路の左側に資源開発省 (Ministry of Natural Resource & Commerce) の看板を見つけることができる。この建物内には投資観光局があり、観光客への色々な資料が用意されている。営業時間は平日のAM8:00～PM5:00(ランチはクローズ)。

<https://www.rmiocit.org>

E-mail: ourteam@rmiocit.org

●郵便局

郵便局は、ウリガ地区と、デラップ地区の2カ所にある。平日は8:30～12:



00と13:00～16:00まで、土曜日は13:00～16:00まで利用できる。

●メディア

マジュロにはAMラジオ“V7AB” (1098CH) が1局あり、これは離島でも受信できる。現在ケーブルテレビは無くなり、NTAがデジタル放送をやっている。新聞は木曜日発売の“The Marshall Islands Journal”がある。

●医療サービス

マジュロには80床をもつ近代的な公立病院“Majuro Hospital” (Tel. 625-3355/急患625-4144) と、民間の診療所“Majuro Clinic” (625-6455) がある。

また潜水病など緊急の場合はクワジェリンの軍施設病院に搬送されることもあるが、その場合はダイビング旅行保険に必ず入っておく必要がある。一般の診察は受け入れていない。

●航空会社

ユナイテッド航空のチケットオフィス(625-3209)は、テラップ地区K&Kスーパーマーケットやグアム銀行に隣接している。国内線の手配はエアーマーシャルアイランド航空(625-3733)で、オフィスはウリガ地区にある。



国内線中心のエアー・マーシャル

●タクシーとバス

マジュロのタクシーの屋根には日本と同じようなマークが付けられているのでわかりやすい。タクシーは乗合方式で、自分の行きたい方向へ走っている空席のあるタクシーに手を振れば止まってくれる。ダウンタウンから橋までは1ドル50セント。ダウンタウンから空港までは7ドル。ロングアイランド地区まで行くと2~5ドルとなる。ただし、タクシーの料金規定はなく、これらの料金は目安なので、料金はドライバーにより異なる。空港から西側の地域へは、基本的にタクシーは行ってくれない。

ローラ村への交通としてダウンタウンからバスがある。片道2ドルでローラまで行

くことができるが、時刻表はないので、時間のない観光客にはあまりおすすめしない。

●レンタカー

30日以内の滞在であれば、日本の運転免許で運転が可能。スピード制限はDUD内が時速25マイル、教会や学校付近は15マイル。また島では歩行者優先なので、安全運転に心掛けたい。

●チップ

チップは義務ではないがホテルのベットメイキングには、1ドルから2ドル置いていく観光客が多い。タクシーやレストランなどはチップ不要。

アクティビティ

美しい島のビーチでリラックスしているだけでも時間を忘れてしまうが、マジュロにはさまざまなツアーを用意しているオペレーターがあり、滞在をさらに楽しむことができる。

マジュロの観光シーズンは、ほぼ通年。6月~10月上旬は風も弱く、海も凪ぐ。1月~5月は北東からの貿易風が吹くが、晴れの日が多い。ただし、11月~12月上旬は雨が多く、海が荒れる日もある。

●ダイビング

マジュロでのダイビングは、日本人ダイバーの間で人気急上昇している注目のスポットだ。海中は、世界でも類を見ない素晴らしい珊瑚礁が広がり、ミクロネシア・ブルーと呼ぶにふさわしいバツグンの透明度を誇っている。

外洋でのダイナミックなドリフトダイビング、魚影の濃いパス（水路）でのダイビング、じっくりフィッシュ・ウォッチングを楽しめるラグーン。環礁という海の特徴を活かしたダイビングスポットの数々に、十分に満足できる。

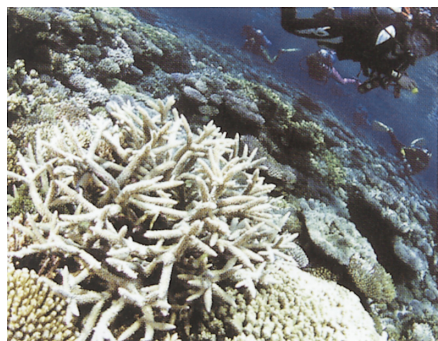


沈潜ダイビングは冒険心をかき立てる

●シュノーケリング

環礁内にはサンゴからできた真っ白な美しいビーチがいくつもある。小島でピクニックをしながら、目の前に広がるラグーンをシュノーケリング。浅い海にもサンゴはびっしりとあり、カラフルな魚達を観察することができる。

マーシャルはサンゴの保護を心掛けてい



マジュロのサンゴは種類が豊富でダイバーに人気

るので、サンゴには触れない・壊さないよう十分な注意が必要である。

●フィッシング

ジギング・キャストイング・ボトムフィッシングも楽しめるが、マジュロでは是非トロリングにチャレンジして欲しい。マーシャル近海は良好な漁場となっており、大きなカジキをヒットするチャンスも多い。

フィッシングチャーター料金は半日\$400～。トロリングの場合はプラス\$100くらい必要。

●カヌーツアー

マーシャルの伝統的なカヌーに乗ってラグーンクルーズ。また、カヌーを作っている場所も見学ができ、説明（英語のみ）など聞くことができる。

●島内観光

マジュロの島をぐるりと一周する半日のツアー。ヤシの並木道を走り抜け、車窓の両側に海を眺めることができる、マジュロならではの光景だ。本当に長細い島だと実感することができる。

旅行会社

エム・ジェー・シー・シー

MJCC (Tel: 625-3066/Fax: 625-3766)

日本人経営で、ホテルやレンタカーの手配、マジュロの案内を含めたランドツアーを行っている。気軽に日本語での問い合わせも可能。マジュロの案内を含めたランドツアーを行っている。

Email: info@mjcc.biz

レイクルー

Raycrew, Inc.

2011年5月より新ダイビングサービス&現地ツアー会社がオープン。

Web: www.raycrew.jp

Email: info@raycrew.jp

インディーズ・トレーダー(クルーズポート)

Indies Trader (Tel: 625-3250 ex. 224 (CENPAC))

宿泊施設、キッチンを完備したマリンレジャーボート(8人乗り/16人乗り)のチャーター。離島へのダイビング、フィッシング、サーフィンクルーズ等に利用可。

チャーター料: \$3500~/日

観光スポット

ローラビーチ・パーク

Laura Beach Park

マジロ島の西端にあるローラビーチ公園は、ローカルにも人気のピクニック場。海の透明度は抜群で、波のない穏やかな遠浅の海がどこまでも広がる。シャワーやトイレの簡易施設もある。入園料は一人1ドル。



アレレ博物館

Alele Museum

マーシャルの文化や歴史に関心があるのなら、アレレ博物館へ。ダウンタウン内にあり、月から金曜日は9:00~正午と13:00~16:00まで開いているが、開館時間内でも閉まっている事があるので、事前に確認をするか、隣接する図書館のスタッフに声をかけるとよい。



アレレ博物館内

マジロ平和公園

Majuro Peace Park

街から空港へ向かい、空港を過ぎてすぐ右手側にマジロ平和公園が見えてくる。この公園は、日本政府が第二次世界大戦中に太平洋諸島で戦没した人々の慰霊と、この地域の恒久的平和を願って造った記念の公園であり、中央にはマーシャル諸島及び



公園中央にある「東太平洋戦没者記念碑」

ギルバート諸島で亡くなった人々の慰霊のため、日本政府によって建立された「東太平洋戦没者記念碑」がある。

タイフーン・モニュメント

Typhoon Monument

ローラ地区にあるタイフーン・モニュメント。大正7年11月8日、大型台風が発生し、大被害を被ったマーシャル諸島に、大正天皇が救済し、それを讃えたもの。



タイフーン・モニュメント

エネモネ島

Enemanot Island

ダウントウンからボートで15分の距離にある島。バーベキューのコンロなどがあり、週末にはローカルの人で賑わうピクニックの島。島の前のラグーンはいつも穏やかで、シュノーケリングやシーカヤック



にも最適な場所である。施設の利用は無料で、日帰り利用のみ可。(ボート別途手配要)事前に管理会社へ連絡が必要。

P.I.I. Tel: 625-3122/3560

キディネン島

Kidenen Island

ダウントウンからボートで25分の距離にあり、簡易宿泊施設がある。無人島の雰囲気を残しながら、便利なキャビン(小屋)が用意されているので快適に滞在できる。希望であればキャンプでの宿泊も可能。日帰り利用は\$30/人。スリーバックアイランドとしても知られる。

Tel: 625-3251/Fax: 625-3136

Email: journal@ntamar.net

1泊1人 \$30

(クレジットカード使用不可)



エネコ島

Eneko Island

ダウントウンからボートで20分の距離にあり、3つのバンガロー、バーベキュー設備、ビーチバレー、カヌー等が楽しめる。日帰り利用は\$30/人。

Tel: 625-6474/

Fax: 625-3783, 3505

Email: administration@rreinc.com

hotelrr@rreinc.com

1泊1部屋 シングル \$40

ダブル \$45

往復ボート代\$20/人

(クレジットカード使用可)



ビケンドリック島

Bikendrik Island

オーストリア人の女性が経営するプライベートリゾート。宿泊施設も充実しており、家具は全てオーストリア等からアンティークを仕入れている。こちらでは、マーシャル諸島唯一のコース料理が楽しめる。料理の名門学校ル・コルドン・ブルーで資格を取得した奥様が腕をふるう。贅沢なプライベート時間を過ごしたい人にオススメ。日



帰り利用も可能。

Tel: 455-0787

1泊\$760/1室(朝・昼・夜付き)

(クレジットカード使用不可)

シャコ貝養殖所

Marshall Islands Mariculture Farm

ロングアイランド地区にある大シャコ貝の養殖場。数センチの赤ちゃん貝から育てて、世界中の水族館などに輸出している。大きいものになると1mほどまで成長している。事前に問い合わせが必要(247-2526)

WAMカヌーハウス

Canoes of the Marshall Islands (WAM)

工房でカヌーや椅子を作り販売している。なくなりつつあるカヌーの伝統技術を若者に継承して守ろうとしている。

カヌー工房見学：月～金曜

マーシャル伝統カヌー乗船体験(1時間\$20)：月～日曜

要事前予約

Tel:625-6123



魚市場

Fish Market Center

ウリガドックにある日本のODAで建てられた魚市場。毎日新鮮な魚や貝が手に入る。

営業時間：9AM-6PM。日曜定休。



トボラー・コブラ工場

Tobolar Copra Processing Plant

マーシャル諸島の主要な産業であるコブラを製品化する工場。離島から運び込まれたコブラからココナッツオイルやココナッツ石鹸を作る過程を見学でき、製品を格安で購入することができる。工場はデラップドック内とウォジャ地区にある。(デラップで絞った油をウォジャ地区で精製しています)。(625-3116)



ホテル

マジロのホテルには8%のナショナル

タックスと1泊一部屋3ドルの地方ホテル税が加算される。

ホテル・ロバート・レイマーズ

RRE Hotel (625-5131)

街の中心にある便利なホテルで、マリナーも同じ敷地内にある。部屋のカテゴリーもエコノミーからスイートまで4種類あり、予算に応じた選択が可能。一番人気はバンガロータイプの部屋で、リゾートムード満点。全室、クーラー・シャワー・テレビ・冷蔵庫・電話完備。料金はツインで\$80~。



マーシャルアイランド・リゾート

Marshall Islands Resort (625-2525)

大型リゾートホテル。全150室の、どの部屋からもラグーンが一望できるオーシャンビュー。場所はデラップ地区にあるのでタクシーを使えば不便はない。全室、



クーラー・シャワー・テレビ・冷蔵庫・電話完備。料金はツインで\$130~。

<http://www.marshallislandsresort.com>

レストラン

エンラ・レストラン

Enra Restaurant

マーシャルアイランド・リゾート内にあるレストラン。各曜日毎のビュッフェは人気があるコース。雰囲気のある室内でゆっくりと食事ができる。

火曜：ピザ、パスタナイト

金曜：プライムリブナイト

水曜：スシランチ

日曜：サンデーブランチ

営業時間：6:30AM-9:30PM

Tel: 625-2525 (内線 7604)



タイドテーブル

Tide Table

ホテル・ロバート・レイマーズ内にあるレストラン。味も日本人の口に合い、ボリューム満点で地元のお客さんも多い。ランチとディナーは日替わりのスペシャルメニューを用意して、毎日ホテルの食事でも飽きがこないよう工夫されている。

Tel: 625-3250-248



フレイムツリー

Flame Tree

ピザやハンバーガーなどアメリカンスタイルのレストラン。バーにもなっており、ビリヤードやカラオケも楽しむお客さんで夜は賑わっている。

営業時間：7 AM-9 PM

バー、ダンスフロア：4 PM-10 PM

バー、ビリヤード、カラオケ：4 PM-12 AM

Tel: 625-8733



ウォンハイシェン・レストラン

Won Hai Shein Restaurant

ウリガ港の近くの裏通りにある中華料理店。清潔で広い店内からはラグーンが一望

できる。日曜休み。

営業時間：9AM-2PM (昼)

5PM-9PM (夜)

Tel: 625-6641



ダール・レストラン

DAR Restaurant

ダウンタウンの裏通りにある、ローカル料理を食べさせてくれるレストラン。

営業時間：月～木曜日 6AM-8PM

金、土曜日 6AM-9PM

日曜日 6AM-6PM

Tel: 625-3174/3680



チットチャット

Chit Chat

ピザ等のメニューが豊富。夜は、クラブ兼レストランで、テラス席も完備。店内で

は、ビリヤードも楽しめる。

Tel: 625-5699



リワットコーナー・アウトバック

Riwut Corner Outback

ローカルフード、アメリカンフード、フィリピン料理などメニューが豊富。日替わりスペシャルメニューもあり、夜はバーも営業。

営業時間：月～土曜

8:30AM-3PM (朝昼)

6PM-9PM (夜)

Tel: 625-7200



トーエク バー&グリル

Toeak Bar and Grill

NAPAビル5Fに2021年にオープンした、眺めのよいスポーツバー・レストラ

ン。外洋と内海を一度に見渡すことができる。アメリカンフードの他に、まぐろのポキやロール寿司もある。

営業時間：月～土曜 12PM-0AM
Uluga Dock, NAPAビル5F
TEL:625-3370



土産品

マーシャル諸島の手工芸品は品質が高く評価されている。ヤシの葉とパンダナスの葉の2種類を使い、編みこんで非常に繊細にバスケットやカゴを作る。マーシャル語で、ハンディクラフトのことを“アミモノ”と呼び、日本語から由来している。特徴のあるものはスティックチャートと呼ばれる棒を組み合わせたもので、昔はこれを使って波の特徴などを伝えて航海に役立てた。ほかにアウトリガー・カヌーのモデルやキリバックなどに人気がある。

マーシャルではディスカウントという文化がなく、すべて良心的な料金で提示している。マナーを守って、無理に値切ったりしないように気をつけたい。

●空港にあるハンディクラフト

マジロ空港のターミナル内に5～6軒のハンディクラフトショップがある。こちらにはいつも品揃えも豊富。早めに飛行機のチェックインを済ませて、ゆっくりと見てまわると、欲しい物を見つけられるだろう。飛行機の時間にあわせて営業している。

ビジー・ハンズクラブ

Busy Hands Club

ウリガ地区にあるショップで、アミモノを取り扱っている。

営業時間：月～土曜 9AM-5PM
Tel: 625-7440

ダール・セールス

DAR Sales

ウリガ地区にあるショップで、アミモノやTシャツ、ヌクヌクグアム、オイル・ソープやスナックまでお土産品の取り揃えが豊富。

営業時間：月～日曜 7:30AM-8PM
Tel: 625-3174

エレファ・ハンディクラフトショップ

ELEFA Handicraft Shop

ウリガ地区のハンディクラフトショップ。アミモノ、カヌー・スティックチャート、オイル・ソープ等が購入できる。

営業時間：月～土曜 9AM-5PM
Tel: 625-4303

ハッピーハンズ・ハンディクラフトショップ

Happy Hands Handicraft Shop

ウリガ地区にあるハンドクラフトショップ。アミモノ、カヌー・スティックチャート、オイル・ソープを取り揃える。

営業時間：月～土曜 9AM-5PM

Tel: 625-0052

レイペジ・ハンディクラフトショップ

Leipajid Handicraft Shop

ウリガ地区にあるハンドクラフトショップ。アミモノやオイル・ソープの他、スナック類も取り揃える。

営業時間：月～土曜 9AM-5PM

Tel: 625-6880

フォルモサ・スーパーマーケット

Formosa Supermarket

マジュロ内に3店舗ある、台湾系のスーパーマーケット。アジアンフードが中心だが、日用雑貨も販売しており、マーシャルでしか買えないMAJUOROビーチサンダルが購入できる。また、洋風の生地を販売しており、オーダーメイドでアロハシャツも作ってくれる。



営業時間：月～木曜 8:30AM-9PM

金、土曜 8:30AM-10PM

日曜 8:30AM-8PM

Tel: 625-3530

ペイレス・スーパーマーケット

Payless Super Market

デラップ地区にあるペイレススーパーマーケットは、マーシャル諸島内で一番大きいスーパーマーケットで、アメリカからの輸入品を中心に生活用品はなんでも揃う。

営業時間：月～木曜 8AM-9PM

金、土曜 8AM-10PM

日曜 8AM-8PM

Tel: 625-3123



エム・ジェー・シー・シー

MJCC

マーシャル諸島唯一の日系スーパーマー



ケット。日本食や調味料も揃う。

営業時間：月～土曜 8AM-6PM

Tel: 625-3500

イージー・プライス・マート

EZ Price Mart

一般家庭用生活雑貨はもちろん、日本のドンキホーテのようなお店。家電や工具、タイヤなど何でも揃う。

営業時間：月～土曜 9AM-8:15PM

Tel: 625-4758



ドゥー・イット・ベスト

Do It Best

家庭用雑貨や工具、ハードウェアが揃うホームセンター。



その他の環礁



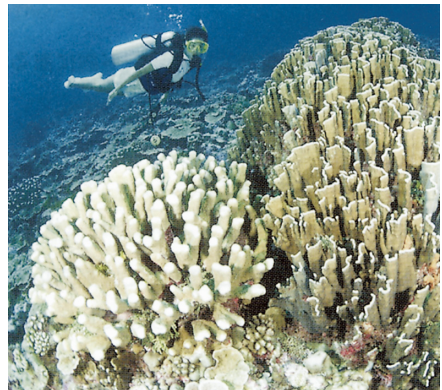
都会の喧騒を離れ、自然のままの海が残る離島への旅もマーシャル諸島ならではの素晴らしい体験になるであろう。

●アクセス

その他の環礁へは国内線の飛行機を使って行く方法と、ボートをチャーターして行く方法がある。ほとんどの環礁には飛行機（エアーマーシャルアイランド航空 Air Marshall Islands 625-3731）が運航しているが、便数が少なくフライト変更やキャンセルが多いため、日程に余裕を持って計画をした方がよい。ボートの移動は、距離にもよるが、36フィートクラスのスピードボートから150トンクラスの貨物船をチャーターしてクルーズツアーを組むことになる。マジユロ～アルノ以外は定期運行の客船はない。ボートチャーターについての問い合わせはマーシャル諸島政府観光局へ。

●宿泊

ここでは、観光客が安心して宿泊できる施設のある環礁だけを紹介した。問い合わせは各環礁紹介の文末にある宿泊施設に直接申し込むか、マーシャル諸島政府観光局へ。



アルノ環礁のサンゴ

アルノ環礁

Arno Atoll

マジロから東に15キロ離れた133のサンゴ島からなる環礁。マジロから近いこともあり、気軽にデイトリップで参加することができる。マジロから船で約1時間、週3便マジロ-アルノ間でフェリーがある。マジロよりも透明度の良い海とも言われ、外洋が穏やかな5~10月頃がベストシーズン。港近くでも沢山の珊瑚が生息し、シュノーケリングに適している。

●宿泊

Arno Bed & Breakfast 625-3250
Enedrik Island (949) 675-7579
Email: RICMKOVER@yahoo.com
(\$499~999/週)



アルノ環礁の宿泊施設



アルノ環礁シュノーケリング

ビキニ環礁

Bikini Atoll

1946年、アメリカ軍が行う原爆実験に反対して、フランスのデザイナーが新作発表の水着に“ビキニ”と名づけた。本来“ビキニ”の語源はマーシャル語で“多くのヤシの木”という意で、その名の通り自然を多く残している島だった。また、世界で初めて水爆実験が行われたのも、ここビキニ環礁である。米軍は実験の際に、環礁湖に70余りにも及ぶ大小艦船を標的として浮かべた。その中には、アメリカの空母サラトガや、日本の戦艦長門も含まれていた。

現在では、実験による放射能汚染は短期間の滞在では問題のないレベルで安定していると発表されており（ただし、島の作物などは摂取してはならない。海産物なら可能）。2010年には世界遺産として登録された。2011年現在、宿泊施設は営業していない。インディーズ・トレーダーの大型ボート（p.19参照）をチャーターするか、エアマーシャルアイランドをチャーターして日帰りする方法がある。



ビキニ環礁沈没ダイビング



水爆実験で3つの島が吹き飛ばされたブラボーショット

クワジェリン環礁

Kwajalein Atoll

クワジェリン環礁は世界最大(130キロ×50キロ)の環礁で、マーシャル諸島国内では第二の都市となっている。クワジェリン環礁には米軍基地や飛行場のあるクワジェリン島、地元の人達が住むイバイ島などあわせて97のサンゴ島が集まっている。

アメリカの戦略防衛構想に絡み、カリフォルニアの空軍基地からこのクワジェリン環礁を目掛けて、弾道ミサイルを発射し、



迎撃をする実験場に使用されている。この影響で、クワジェリン島には3,000人のアメリカ軍関係者および家族が居住しており、一般人の訪問は許可されていない。

クワジェリン島の北5キロにあるイバイ島には一般人も立ち入りができ、宿泊施設も幾つかあるが、観光となるものは特にない。

Hotel Ebeye 625-3230

ジャルート環礁

Jaluit Atoll

マジュロ南西約150キロにある環礁で、ドイツの統治時代には主島ジャポールをコブラ貿易の拠点とし、後には総督府を置いた。日本の統治時代にもそのままマーシャル諸島の首都と定め、また漁業の拠点とした。

2001年から地元の団体が自然保護と観光化への運動を活発に行い、海鳥や亀の産卵場などの自然保護区を設けた。

マングローブ林に囲まれた環礁は、日本



空から見るジャルート環礁

統治時代の古い建物が多く残る。2004年、ラムサール条約湿地に登録。

Jawoj Hotel
(MEC Hotel)

625-3829



ジャルートの美しい珊瑚礁

ウォッチェ環礁

Wotje Atoll

マジュロの北北西300キロにあるウォッチェ環礁は、第二次世界大戦中日本軍の基地が置かれ、今でも町中に当時の大砲がマーシャル政府によって保存されている。その他、数多くの燃料倉庫、発電機、防空壕が残っている。

Wotje Apartments 625-3636

リキエップ環礁

Likiep Atoll

ドイツからの移民がマーシャル諸島に入ってきた時、多くの移民がこのリキエップに永住を決意した。その当時、首長から



リキエップの宿泊施設

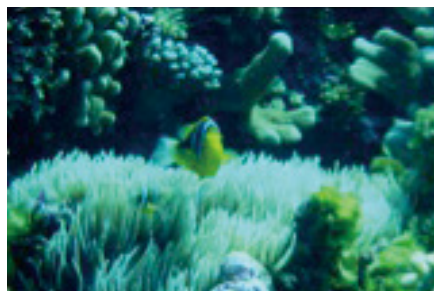
土地を買い、私有地としてリキエップ島を所有したことから、現在でも唯一首長制度のない環礁であり、島の有力者は、その移民の末裔である。

ロンゲラップ環礁

Rongelap Atoll

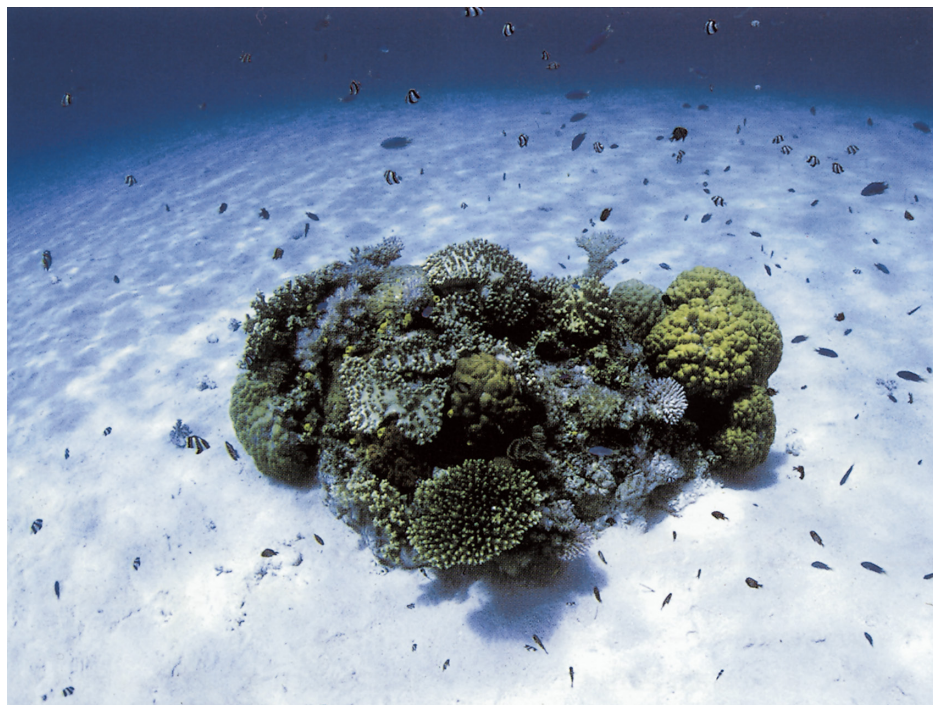
1954年3月にビキニ上空で行われた実験は、東に150キロ離れたこの環礁にも死の灰を降らせた。当時、近海で操業していた第五福竜丸が被爆したことで知られている。

今なお避難生活を強いられている島民が故郷のロンゲラップに戻れるように、島の整備工事が着々と進んでいる。



ロンゲラップの教会

マジュロラグーンでのシュノーケル



マジュロラグーンは、透き通るような海に囲まれ、真っ白な砂浜が広がっており、陸にはヤシの木が茂っている。マーシャル諸島の海の中には、世界でも有数のサンゴやカラフルな魚貝類が多く生息している。首都マジュロ環礁のラグーンには、40近くの「スモールアイランド」と呼ばれる小島が円上に点在している。多くは個人所有だが、観光客が訪問できる島もいくつかあり、バーベキューやシュノーケリング、フィッシング等、のんびりと楽しむことができる。マーシャル諸島では、是非、シュノーケルを楽しみ、青い海、美しいサンゴ、カラフルな熱帯魚を堪能していただきたい。

●シュノーケルツアーのスケジュール

シュノーケルツアーに参加する場合、前日までに予約が必要となる。集合時間は朝9時ごろ。ツアー会社により集合場所が異なるので、予約時に確認すること。また、



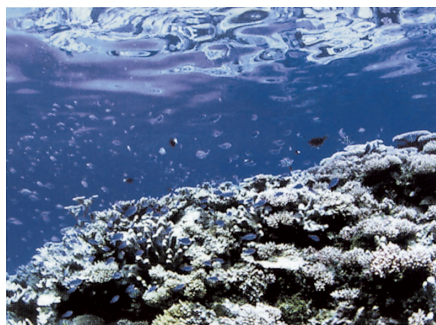
水着は集合時まで下に着ておく方が良い。シュノーケルセットのレンタルはないので、現地で購入もしくは日本からの持参するのがよい。

ボートで環礁の中を約20分で、美しいビーチが広がる無人島へ到着する。泳ぎたい時に泳ぎ、お腹がすいたら各自ランチを取る。全く気ままな南の島の旅であることを実感するだろう。

●気をつけたいこと

まず自分の体力に合わせて泳ぐこと。つい時間を忘れ、いつまでも海に入っていたい気分になるだろうが、適度な休憩を取ること大切。また、シュノーケルに夢中になると、ずっと下を向いたまま水面を漂うことになるので、天気の良い日はもちろん、曇りの日でも背中が日焼けを超えてヤケド状態になってしまうこともあるので、日焼け対策をしっかりとしておくこと。なお、Tシャツを着たまま泳ぐ人も多い。

マーシャルの海は今日も原生の姿を残している大変貴重な存在であり、大切な観光資源。その海を環境を壊してしまわないような心がけも必要である。マーシャルの海



では餌付けが禁止されているので、食べ物などを海に持ち込まないこと。サンゴは一見、石のように見えるので、触ったり、踏んだりして壊さないよう十分気をつけたい。

代表的な魚の種類

マーシャル諸島ではシュノーケリングでも多くの魚種に出会えるが、その代表的な種類には次のようなものがある。

●スリーバンデッドアネモネフィッシュ

マーシャル諸島にしか生息していないと言われるクマノミの仲間。体の3本線が特徴。アネモネ島には、シュノーケリングで見られる場所がある。



●ダスキーアネモネフィッシュ

ミクロネシア地域に生息しているクマノミの仲間。オレンジ色の体色に黒い腹と首筋に一本の白線が特徴。礁湖内の浅場で、見られる。



●クジャクスズメダイ

体長5cm前後の青色の体色をした、水中では一際目立つ魚。主に礁湖内で見られる。群れをなして、サンゴの上を泳いでいる。ソラスズメダイに似ている。



●ミスジリュウキュウスズメダイ

黒い線が3本入った魚。数匹と一緒にサンゴの近くを泳いでいる。臆病な魚で、



近づくとすぐにサンゴの家に引っ込んでしまう。サンゴの多いリーフの浅場で見ることができる。これと同じに見られるスジリュウキュウスズメダイがいる。

●オオギチョウチョウウオ

白い体に黒い渦巻き状のラインが特徴。単独またはペアで泳いでいる。



ほかの海ではなかなか見られない珍しいチョウチョウウオだが、マーシャルでは普通に見られる。

●セグロチョウチョウウオ

熱帯魚の絵本などに良く登場する南の海を代表するチョウチョウウオ。とても愛嬌のある顔をして



いる。内湾や礁湖の浅場で見られる。

関係先リスト

大使館

- 在京マーシャル諸島共和国大使館

〒105-0003 東京都港区西新橋3-13-7 虎ノ門SOUTH 3F

Tel: 03-6432-0557

Fax: 03-6432-0558

- 在マーシャル諸島共和国日本国大使館 (Embassy of Japan)

AC Building, Jebel Wetu, Delap, Majuro, MH 96960

(P.O. Box 300, Majuro, Marshall 96960)

Tel: (692) 625-3311

貿易・投資コンタクト先

- Ministry of Natural Resource and Commerce

P.O. Box 1727, Majuro, MH 96960, Republic of the Marshall Islands

Tel: (692) 625-3206/4020

- Marshall Islands Marine Resources Authority (MIMRA)

P.O. Box 860, Majuro, MH 96960

Tel: (692) 625-5632/8262

Fax: (692) 625-5447

Email: inquiry@mimra.com

観光コンタクト先

- Office of Commerce, Investment & Tourism (OCIT)

P.O. Box 898, Majuro, MH 96960, Republic of the Marshall Islands

Tel: (692) 625-4624

Fax: (692) 625-6771

Email: ourteam@rmiocit.org

~MEMO~

A series of 20 horizontal dashed lines for writing.

●写真並びに記事にご協力いただいた方（順不同・敬称略）

Marshall's Japan Construction Company (MJCC) 佐藤恒介

PICの著作物に関しては、無断での複写・複製・転載はお断りしています。
さらに、転売・出品も禁止とさせていただきます。

マーシャル諸島

発行日：2022年3月31日

発行：国際機関 太平洋諸島センター

〒101-0052

東京都千代田区神田小川町 3-22-14 明治大学紫紺館 1階

電話：03-5259-8419

URL：<https://pic.or.jp/>

Printed in Japan

MARSHALL ISLANDS

